

6 安全な水とトイレを世界中に



Goal 6 安全な水とトイレを世界中に

CLEAN WATER AND SANITATION

●この目標(Goal)の解説

水は生活する上で必要不可欠であり、安全な水がなければ健康でいられません。目標6では、「すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する」ことを目標としています。

日本では安全な水とトイレ、衛生設備が整った環境を当たり前のように使用できます。しかし世界には、安全に管理された飲み水とトイレがない国や地域が多く存在します。「安全に管理された水（必要な時に自宅で使用できる汚染されていない飲み水）」には約22億人、「安全に管理されたトイレ（安全で衛生的に処理できる設備がある）」には約42億人がアクセスできていないと言われています。

目標6では、2030年までに「すべての人々の、安全で安価な飲料水の普遍的かつ平等なアクセスの達成」を目指しています。実現するためには、水を清潔にするだけでなく、下水施設や衛生施設を利用しやすくしたり、安全に水を管理する仕組みを整えたりする必要があります。また水質を改善するために、山地、森林、河川、湖沼など水に関連する生態系の保護や回復を行うことも大切です。この生態系の保護・回復は2020年までに達成することを目標として掲げています。開発途上国における水と衛生分野に関する課題解決や目標達成のためには国を越えた連携や投資も必要です。さらに、水の確保は女性や少女の仕事である地域が多く、女性が教育・就労の機会を失う原因にもなります。目標6を達成することは、安全な水と衛生施設の利用だけでなく、ジェンダー平等にもつながるのです。



●大学生協での実践事例



宮城大学生協(大和キャンパス) ウォーターエイド募金大作戦!!

大学祭の出店での売上の一部を国際NGOのウォーターエイドへ募金した取り組みです。レジュメを作成・来場者への配布をして、日本では感じにくい世界の水問題とウォーターエイドの取り組み、大学生協に関わる私たちが募金をする意味を紹介しました。来場者への、出店の呼びかけの際にも声に出してこの取り組みを紹介をしました。「たすけあい」を大事にした、大学生協らしい取り組みです。



富山大学生協 事業体として下水処理を見つめ直した取り組み

生協食堂での排水処理の在り方を、組合員を巻き込みながら大学一丸で対策に取り組んだ事例です。排水中のノルマルヘキサン抽出物質の基準値オーバーをきっかけに、大学と共に学習会を実施したり、排水設備の清掃や増設、ノンオイルドレッシングへの変更など生協食堂での生協の取り組みを徹底的に見つめ直し、改善を行いました。学生委員会もポスターを製作し学生への啓もう活動に励みました。



●この目標に対して私たちができること

私たちができること／自分の大学・大学生協でできることを考えてみよう！